

「エナジアの吸入方法」の
動画をWebサイトでご覧いただけます。

https://secure.novartis.co.jp/enerzair_atectura_movie/

こちらのQRコードからアクセスしてください。



かかりつけ医院・病院の連絡先

エナジア™を服薬の方へ
はじめてのエナジア™
—— 気管支喘息^{ぜんそく} ——

監修

藤田医科大学医学部
呼吸器内科学Ⅱ講座 教授

堀口 高彦 先生

ぜんそく治療の目標

(日本アレルギー学会 喘息予防・管理ガイドライン2018による)

健康な人と変わらない
日常生活を送ることができる

発作で夜中や早朝に
目が覚めることがない



ぜんそくの影響を
気にせず仕事ができる



諦めていたことができる
思いっきり余暇を楽しめる



息苦しさやせき込み、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」といった
喘鳴(ぜんめい)などが現れます。

- 息苦しい
- せき込む



- 呼吸時にゼーゼー、
ヒューヒューという音が出る



- 夜間や早朝に、せきや息苦しさなどの
ぜんそく症状が出やすい
- ぜんそく症状で夜間、目が覚める



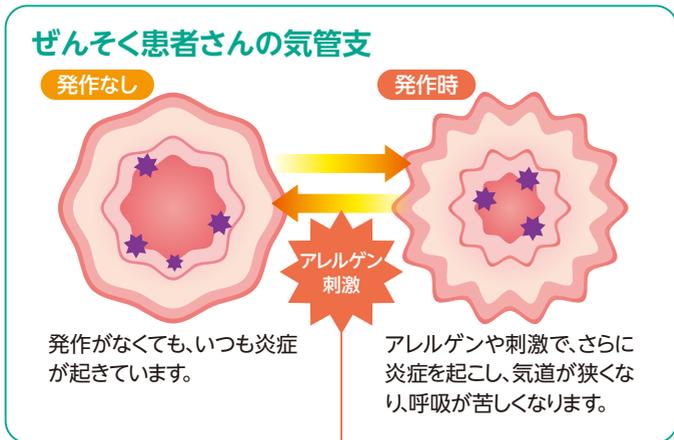
- 走ったり運動した後、息苦しい



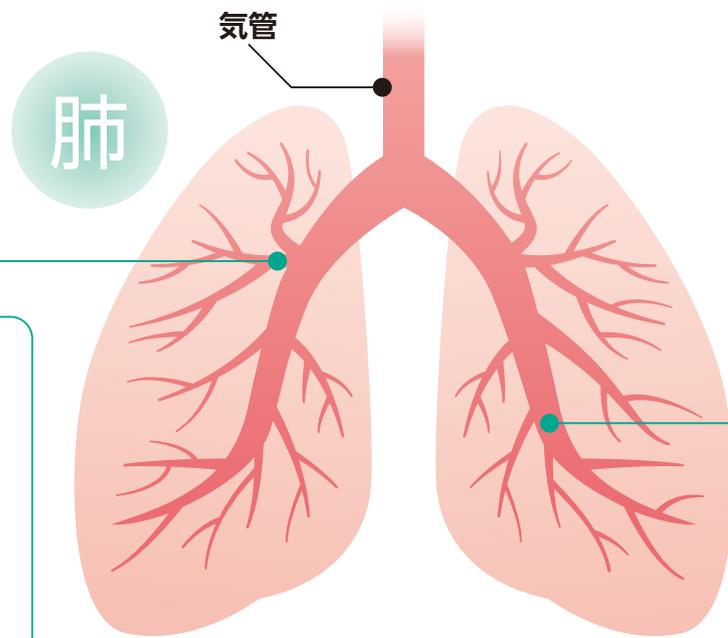
ぜんそくの発作はこれに限らず、胸の痛みやのどに感じる
違和感だけといった場合もあります。

ぜんそくは、呼吸する時の空気の通り道(気道)が炎症によって狭くなることで起こります。

エナジアには「気管支を広げるお薬」と「気管支の炎症を抑えるお薬」が含まれています。



ぜんそく発作を起こす例



エナジアの有効成分 **イメージ**

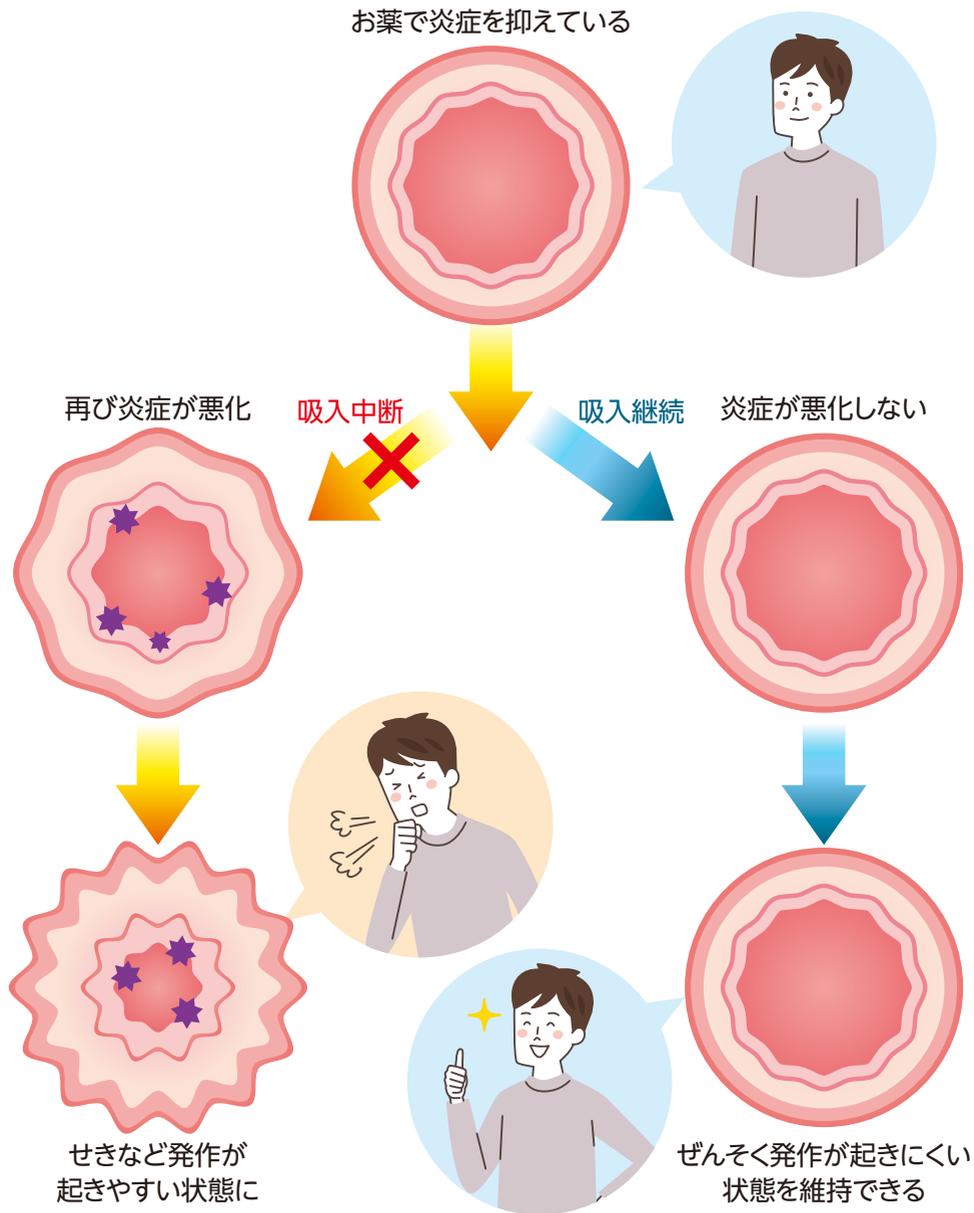
- 気管支のまわりの筋肉を広げる **インダカテロール**
- 気管支が細く縮まるのを抑える **グリコピロニウム**
- 炎症を抑える **モメタゾン**

エナジアカプセル

- インダカテロール
- グリコピロニウム
- モメタゾン

エナジアを継続して吸入していただく重要性

エナジアは継続して吸入することが非常に重要です。



エナジアはぜんそく発作が起きてしまった時に吸入する薬剤ではありません。

ぜんそくの発作が治まっても気道の炎症は続いています。エナジアは、継続的に吸入することでその炎症を抑え、ぜんそく発作を起きにくくするためのお薬です。発作がない時も主治医の指示に従って吸入を続ければ、次第に気道の炎症がしずまり、次の発作を起きにくくすることにつながります。

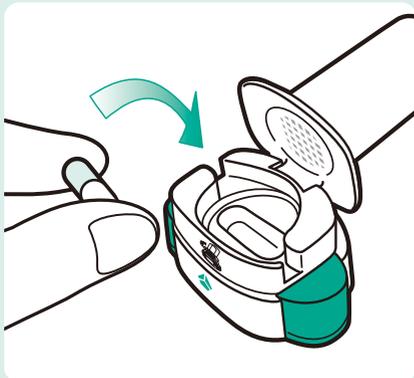
毎日、主治医に指示された使用量と回数を守り、正しく吸入し続けることが大切です。ぜんそくの症状が抑えられない場合は、できるだけ早く医療機関を受診してください。



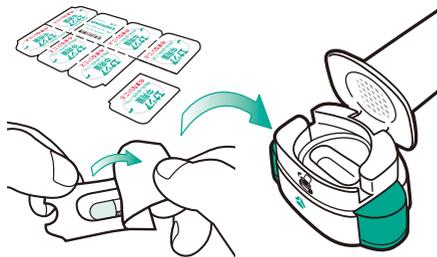
エナジアの吸入方法

1

吸入器(ブリーズヘラー®)に
カプセルを1つだけ
充填します。



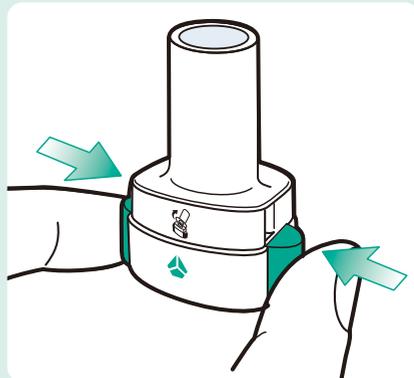
マウスピース(吸入口)を開け、アルミシート
から取り出したカプセル1つをカプセル
充填部(穴)に入れます。



充填した後、マウスピース(吸入口)を、
「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じます。

2

緑色のボタンを
しっかり押し、離します。



両側のボタンを1度
だけ、しっかり最後まで
押します。



最後まで押したら
ボタンを離します。

(ボタンを押したままでは
吸入できません)

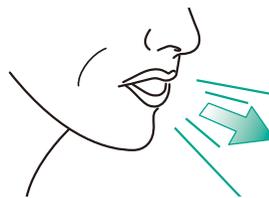


3

息をはき出してから
正面を向いたまま速く、
できるだけ深く吸入します。



吸入する前に、必ず息をはき出します。

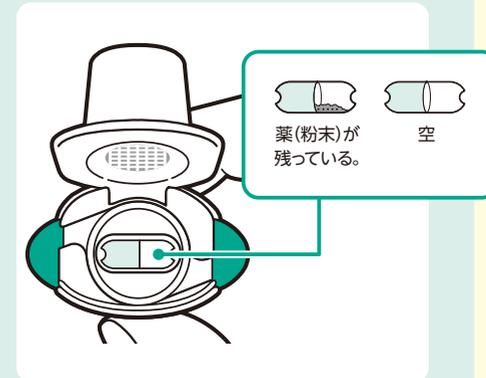


吸入し終わったら、苦しくならない程度に
息を止め、マウスピース(吸入口)を口から
離し、息をはき出します。

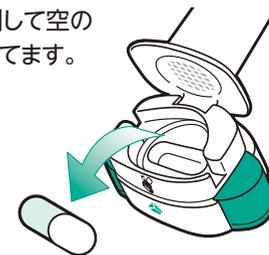


吸入が終わったら…

空になっていることを確認し、
カプセルを捨てます。



本体を横に倒して空の
カプセルを捨てます。



吸入後は
うがいをするか、
口をすすぎます。
口に含んだ水は、
飲み込まず、はき
出してください。



吸入前にご注意・ご確認いただきたいこと



エナジアは吸入するお薬です。
飲み薬ではありませんので
決して内服しないでください。



アルミシートから
カプセルを押し出さないで
ください。



マウスピース(吸入口)に
カプセルを直接
入れないでください。

エナジアを吸入した後に注意すべき症状

■ 声がかすれる、とぎれる



声のかすれ・とぎれは、吸入の後にうがいをして、
口の中のお薬を洗い流すことで、防ぐことが
できます。ですので、お薬を吸入した後は
必ずうがいを行いましょう。
(ガラガラ・ブクブクをそれぞれ
2回以上行くと、より効果的です。)



■ 皮ふが赤くなったり、舌や口の中がひりひりする

■ 動悸やめまいがする

■ 手足の力が抜けたり弱くなったりする

このような症状が現れた場合は、
すぐに主治医にご相談ください。

